

鹿児島県 「水土里ネットひしかり」～地域協働ネットワーク～

役員：18人、職員：3人、組合員：2,053人、受益面積：1,083.7ha

1. 地域の概要

本地域は、県北部の伊佐市南東部(旧菱刈町)に位置する、周囲を山々に囲まれた広大な盆地である。盆地特有の寒暖差の大きい内陸性気候を活かした水稲や園芸作物が生産されている。地区の中央を東西に流れる一級河川川内川流域に広がる肥沃な平野部は、古くから県下有数の水田地帯で、寛文元年(約350年前)に着工された川内川左岸の太良幹線用水(現8.7km)と右岸の菱刈幹線用水(現9.2km)をはじめとする網の目のような水路が、豊かな水を運んでいる。中央部に水田、外縁部に集落が形成される、盆地特有の地形上、水田の用排水路は、地域住民の生活にも昔から共用され、地域が共同で守ってきた歴史がある。

本地域では、民間信仰や暮らしから派生したさまざまな「講」が営まれてきた。講に付随する祭や芸能も多い。水神講、田之神講、馬頭観音講、縄ない講など農事に関わる講も多く、一部は水土里ネットの組合員が中心となって今も続いている。当地域で盛んな「農地・水・環境保全向上対策(水土里サークル)」の活動にも、こうして受け継がれてきた「講」の地域文化が息づいている。

2. 取り組みの背景、きっかけ

菱刈地域では、昭和53年度から4つの県営ほ場整備事業が順次着工し、平成8年度から10年度にかけて完了した。これを契機に、大規模化や新たな営農形態への転換に向けた模索が始まった。しかし、事業開始時の昭和50年には3,703人だった同地域(旧菱刈町)の農業就業人口は、平成12年には1,423人にまで減少し、逆に農業就業人口に占める60歳以上の割合は、32.57%から76.04%へと急増した。

水土里ネットでは、こうした地域の現状に危機感を持ち、平成13年度から積極的に21創造運動に取り組み始めた。農地や土地改良施設が有する多面的な機能や重要性への理解を促し、これらを地域全体で守っていこうと呼び掛けた。その結果、組合員や水土里ネットの関係者に、運動の重要性や意義が理解されていった。しかし、混住化が進む中、非農家を含む地域住民全体への広域的な広がりには時間がかかっていた。

21創造運動の拡大を模索する中、平成19年から導入された水土里サークル活動は、地域の農家・非農家が行う共同の保全管理活動を支援するものであり、水土里ネットや土地改良施設の役割を、地域全体に広める場として大きな効果が期待できた。当水土里ネットでは、水土里サークル活動の導入を機に、21創造運動と水土里サークル活動を一体的に進める組織の構築が必要と考え、役員・総代等が一丸となって、水土里サークル活動の推進と組織づくりに取り組んだ。その結果、水土里サークル活動組織の会長に水土里ネットの理事が就任し、水土里サークルの事務局を水土里ネット事務局が担う組織体制が旧菱刈町全域を対象に形成された。これにより21創造運動も加速的に広がり始めると共に内容も多様化し、現在、2つの活動が相互に連携・補完し合いながら、地域全体で農地や地域資源を守る活動を展開している。

3. 運動の基本理念等 『みんなで守ろう地域の資産…土地改良施設』

ほ場整備事業の完成と時期を同じくして、過疎高齢化が急速に進んだことから、役職員、組合員は、農家だけで農地や土地改良施設を守り続けていくことは困難になると考えた。そして、今後

はこれらの施設を地域の財産、地域資源として、非農家も一緒に「みんなで守る」ことを呼び掛け、地域住民が自分たちの手で、自ら地域を守ることを目標に掲げ、運動に取り組んでいる。

4. 主な運動の概要(開始年)

①内部運動

- 広報誌の発行(H11) ○施設管理活動(H10)
- 伊佐地域土地改良区職員協議会(S63)・伊佐管内土地改良区連絡会議(H23)

②外部運動

- 施設保全活動－あぜ焼き(S26)、清掃作業、反土作業(S26)
- 生きもの調査(H19) ○四季の花で環境向上(H19) ○農業体験(ソバ: H14)
- ウォーク in 田中(H9) ○農道の花火大会(H8) ○講への参加、伝統継承(S26)

5. 運動全体の成果と今後の展望

「水土里ネットを知ってもらうには、まず自分たちが情報を公開すべき」と気づき、広報誌を全戸に配布した時期が自分たち自身の大きな転換点となった。その後、継続して21創造運動と水土里サークル活動に一体的に取り組む、今では、地域の農家と非農家と一緒に参加できる活動を恒常的に実施できるようになった。土地改良施設を使う活動は、すべて水土里ネットが要となって動くことから、多様な人や団体との連携も構築されている。また子どもから高齢者まで、幅広い世代が活動に参加しているのも、大きな効果のひとつで、農業や水土里ネットの事を良く知る高齢世代から話を聞いて、子ども達が水土里ネットを身近に感じ、親しみを持って接してくれるようになった。将来の地域資源管理を担う市民、地域住民の育成にも役立っている。5年間3万8千人の参加者がさらに広がるような多様な活動を展開していきたい。

現在、水土里ネットで取り組んでいる運動は、すべて、誰もが取り組める、小さくて地味な活動である。しかし、この地道な活動を大切に考え、多くの人々がそれぞれに楽しみながら、一緒に、そして一斉に参加する地域に変貌したことが、何よりも大きな運動の成果である。また、こうした市民の活動の支えがあったからこそ、行政からの土地改良施設維持管理経費の支援も可能となった。将来の地域の「講」となるべき、身の丈にあった21創造運動を、地域住民と手を携えて、今後も楽しく地道に続けていきたい。

